加賀市立片山津中学校 学校だより 4月号　文責 校長 山下 悟

片山津中学校学校教育グランドデザインは、BE THE PLAYER（加賀市学校教育ビジョン）の実現（夢の実現）を目指しています。その実現を目指す具体的な取組として、夢をかなえる四つの要素を決定し、本校の特色を十分生かしながら、どのような方向を目指していくかを見える化しました。その四つの要素は、各教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動等、各学年の取組みに合わせ、じっくりと三年間かけて夢の実現、自己実現に向かっていきます。

四つの要素は、SWPBS、SwCo.（スワトンカンパニー）、PLANS、STEAMです。特に、今年度より新規にチャレンジすることとして、SwCo.（スワトンカンパニー）があります。これは「生徒による会社の起業」体験です。生徒たちは将来どのような形であれ、事業を興したり、企業に勤めたりするわけですが、自分がやってみたい仕事や事業があれば、その会社を作り、そこで働いてみることが一番だと思っています。一月に視察してきた長野市立東部中学校さんでは、目的をもって自主的に、かつ意欲的に取組んでいる生徒の姿を目の当たりにしてきました。まさに、私が考える「夢授業」がそこにありました。今はまだ準備段階ではありますが、SwCo.（スワトンカンパニー）を早く軌道に乗せたいと考えています。

『夢なき者に成功なし』

年度の初めに当たって。　～学年担任制にこだわる意味～

今年度より、学級担任制」から、学年担任制」を採用しました。なぜ、学年担任制」にこだわって実施しようとしているのか。その答えは、生徒の主体性の伸張と、自己肯定感の醸成にあります。この二つを実現することが生徒の心の成長＝温かい人間関係作り」としてとらえてほしいと思います。私たち教師は、何気なく、ついつい指示 命令で生徒を動かしています。そこには生徒自身が自ら判断や強い意思で動いているのではなく、いわゆる 指示待ち人間」、主体性のない生徒」を学校教育の中で作り上げているといっても過言ではないと思っています。

本校では一昨年より 自由服登校週間」に取り組んできました。今はそれほどではないのですが、初めて実施した時の生徒一人一人の笑顔やその時の生徒会役員の発言を思い出してください。生き生きしながらインタビューに答えていました。一言一句、教師の指示や命令から言わされている言葉はありませんでした。スタート時は、教師の思いも強かったかもしれませんが、計画を進めていく中で、生徒たちの思いや考えが大きくなり、インタビューにつながっていったと思っています。

教師は、自身のフィロソフィーは勿論、多様な考えや価値観をもって生徒に接してください。私たちが中学校で預かっている生徒たちが、これから放たれていく社会は、マジョリティが主導権を持つ社会ではなく、マイノリティーをも尊重し、多種多様なものの見方を認めていかねばなりません。いつまでも固定観念や無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）に囚われていてはいけないのです。そのためにも中学生のこの時期に、どれだけ経験させられるかが KEY だと思っています。ただし、好き勝手に自分の思いだけでというのではなく、今回示した学校教育ビジョンに沿って行っていただきたいのです。ここだけは私たち片山津中学校に勤めるものとしてブレないで欲しいです。

また、自己肯定感の醸成については、SWPBS がその役目を果たします。複数の教師の目で生徒を 色眼鏡」をかけることなく見抜いてほしいと思います。より多くの目で捉えることで、生徒が持つ内なる善に気付き、それを引き出してほしいと思います。ローテーションはその最善の方法と考えています。授業の中だけではない、素のままの生徒を見抜き、良さを感じ取り、言葉で伝える。これが 愛語』であると思います。愛語よく廻天の力ある…。」

最後に、SWPBS（学校規模のポジティブな行動支援）については、今年度の学校研究の柱です。教職員全員の共通理解と共通実践が大切になってきます。趣旨を理解して、 昔からしていること…。」と捉えるのではなく、応用行動分析学という理論を根拠に執り行われるものです。研修の機会には積極的に参加し、深い理解に努めてください。今後、大学教授等の助言をいただきながら進めていく予定です。さらに、これらの共通理解と共通実践は、授業での基礎 基本の定着、学習内容の理解につながると信じています。ですから放課後学習は一切行いません。教職員の皆さんは、授業でSWPBS を実践され、それを普段の授業で生かしてくれることで、学力の保障、向上につながるのです。全教職員が信じて行う。これが大切です。年度のはじめに当たって、教職員全体で確認しておきたいことを述べました。今年度もどうかよろしくお願いします。

令和５年４月３日（月）

加賀市立片山津中学校　校長　山下　悟

※令和５年度が始まるに当たって、本校教職員（校長の思い、考えを述べさせてもらいました。　第１回職員会議資料より）